

優良苗木の安定供給を目指して

北海道山林種苗協同組合 参事 早苗保穂

1. 北海道の森林について

北海道の森林面積は554万haで、全国の森林面積の約4分の1を占めています。

森林の構成はミズナラやイタヤカエデ等の広葉樹やカラマツやトドマツ等の針葉樹が混交しており、北の大地に広がる森林は、木材の生産をはじめ、水資源のかん養や土砂の流

出防止等、森林の持つ公益的機能によって、私たちの命や暮らしに欠かせない恩恵をもたらしています。



2. 北海道における造林用苗木生産の現状

令和2年度に道内の森林へ植栽されている林業用種苗（造林用苗木）は約1,964万本であり、樹種別では、カラマツが1,081万本、その次にトドマツ457万本となっており、この2樹種で全体の約8割を占めています。

当組合は、これら道全体で生産される苗木の約9割、約1,700万本を当組合の組合員（組合員数46名）によって生産しており、生産された苗木は国有林や道有林・民有林（個人山林や会社所有林等）へ植林に必要な苗木として幅広く供給されています。

苗木づくりは、森（母樹林）から種子を採取し、内陸の平坦地や丘陵地の苗畑に種子を播き、2～5年以上かけて、カラマツやトドマツ等の苗木を育てています。

近年では、苗畑のみで苗木を育成するだけではなく、ハウス等の施設を整備し、専用容器によって育成されたコンテナ苗木の生産にも積極的に取り組んでおり、現在、カラマツやトドマツ等のコンテナ苗木を年間約170万本生産しています。

全国的に戦後植林されたスギやヒノキ（本道ではカラマツやトドマツ）の人工林資源が利用期を迎えており、「木を伐って、使って、植える」という森林資源の持続的なサイクルを維持していくためにも、森林整備に不可欠な資材である林業用苗木は、より優良な品質で安定的に供給することが重要となっています。

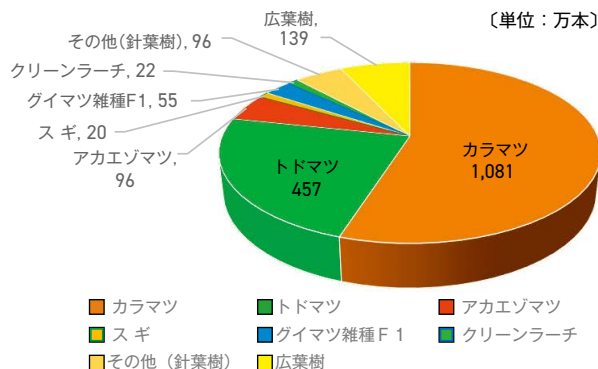


苗畑（露地）で育てたトドマツ苗



ハウスで育てたカラマツ苗（コンテナ苗）

北海道の林業用種苗（成苗）の生産量



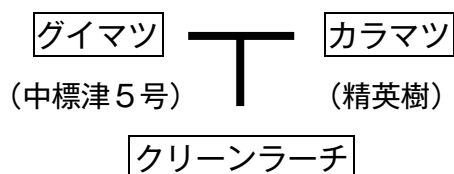
〔出典：令和2年度北海道林業統計〕

3. 脱炭素で注目「クリーンラーチ」について

北海道立総合研究機構林業試験場では、カラマツの育種研究に長年取り組んでおり、カラマツとグイマツの品種を掛け合わせ、従来のカラマツより野ねずみの食害に強く、グイマツより成長が早い「グイマツ雑種F1」の中から、特に二酸化炭素の固定能力（カラマツよりも固定能力が7～20%高い）や材の強度と幹の通直性に優れた「クリーンラーチ」という品種を開発しています。

この苗木は、2008年7月に、環境がメインテーマとなった北海道洞爺湖サミットにおいて、各国首脳に手によって記念植樹されました。

■カラマツ属のF1品種



北海道立総合研究機構 林業試験場が開発

このクリーンラーチは、現在、種子の生産量が限られるため、さし木による増殖により、当組合約20名の組合員が苗木生産に取り組んでいます。



クリーンラーチの林

クリーンラーチの苗木の生産方法は、種子を苗畑に播種し、1年生の幼苗（台木）1本から、約10本前後のさし穂を採取後、苗畑やコンテナに移植して、播種から3年目に苗木を出荷する方法が一般的となっています。



さし穂の切り取り作業



コンテナに移植されたさし木苗

さし木による増殖技術は、ビニールハウス内での温度・湿度・日照管理、灌水や施肥など各種育苗作業を適期適切に行うことが重要であり、道立林業試験場より様々な技術支援・指導を受けながら苗木づくりに取り組んでいます。

北海道では、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボン北海道」の実現を掲げており、苗木のエースとして期待される「クリーンラーチ」をはじめとして、優良な苗木を生産し、安定的に供給していくことが私たち組合員の使命となっています。

4. 林業信用保証制度への期待

苗木の生産期間は基本的にカラマツで2年、トドマツで5年を要し、1年で収穫できる農産物と比べ、投資資金の回収が長期に亘ります。

また、苗木生産者は、個人や会社経営で小規模・零細な事業体が多く、高齢化による作業員の減少など、今後の苗木づくりを担う人材の確保が急務となっております。

苗木生産者が将来にわたって安定した経営が継続できるよう、事業に必要な資金を確保するためには、金融機関からの信用度を高め、より低利で融資を受けることが重要であり、林業信用保証制度に基づき、円滑かつ有利な融資が受けられるよう、今後とも様々なサポートを期待しておりますので、引き続き、ご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。